
【再評価】 4. 都市計画道路事業 庄の原佐野線

《議長》 再評価対象事業、4 番目、都市計画街路事業、庄の原佐野線について説明してください。

《都市計画課》 都市計画道路事業、庄の原佐野線の説明をします。本事業は、大分インターチェンジから市内中心部方向へ向かい、平成 20 年度に供用開始した本路線の大道～上野工区の終点側からが今回の対象事業箇所となります。供用済み区間と一部重複しますが、芸短大北交差点を起点とし、国道 10 号、大分川を横断した下郡工業団地入り口交差点までの 1.2 km が事業区間となります。本路線は大分インターチェンジから都市計画道路下郡中判田線、通称米良バイパスまでの約 6 km 区間が大分中央幹線道路という地域高規格道路として国の指定を受けており、大分自動車道や東九州自動車道との連携や、国道 10 号や国道 210 号といった大分市内の放射状道路を補完する東西骨格道路としての役割を担う道路です。本事業区間には大分川渡河区間があり、下流側に滝尾橋、舞鶴橋、弁天大橋、上流側には広瀬橋や府内大橋といった橋梁が架かっており、これらの大分川架橋部の交通を分散させる目的を持った路線となっています。平面図で、黒と青で着色している部分がありますが、これは昨年度までに取得した用地であり、赤色については今年度で、緑色は来年度取得予定の用地となっています。黄色部分については、道路や河川といった公共用地です。紫色で囲っている箇所については大友氏遺跡歴史公園の予定地であり、本路線の都市計画決定変更時から、文化財部局などの関係機関と調整を行いながら事業を進めています。

今年度は用地取得を重点的に取り組み、橋梁下部工の一部発注を予定しています。平成 24 年度末の事業進捗率は、事業費ベースで 21.6%。用地取得率は面積ベースで 90.5%となる見込みです。今年度取得を予定している用地は現時点ですべて契約済みであり、平成 25 年度で用地取得完了を予定しています。工事については、現在、橋梁下部工の発注準備を行っており、平成 28 年度の完成を目指しています。

事業の目的、必要性についてですが、東九州自動車道と大分市内の各都心を結ぶ都市内連携軸としての役割があります。次に国道 10 号等、大分市内の幹線道路を補完する東西連携道路としての役割があります。次に大分川架橋部、特に滝尾橋東交差点や北下郡ガード西交差点などにおける慢性的な交通渋滞の緩和などが期待されます。庄の原佐野線を整備することにより、大分市臨海部や下郡工業団地に位置する企業に対して、北部九州へのアクセスする際の定時性および迅速性が向上するなど、産業競争力強化に寄与します。また、下郡中判田線まで整備されることにより、9 箇所の渋滞ポイントで交通渋滞が緩和されることが見込まれています。北下郡ガード西交差点については、明野方向から大分市内へ向かう交通渋滞の長さが 920m から 520m となり、400m 程度の削減が見込まれます。

次に経済性についてですが、道路建設費および維持管理費を合計した総費用額が 114 億 8,400 万円であり、便益である走行費用短縮、走行時間短縮、交通事故減少を合計した総便益比額が 286 億 3,100 万円と算出しています。そのため費用便益比、B/C は 2.5 となり、1 以上であるため、費用対効果は十分に得ていると考えています。平成 19 年度に新規評価

を受けた際には 3.1 としていましたが、適用マニュアルの改訂により、交通量が増加した以上に価値原単価の減少による影響が大きいため、総事業費は変わらないものの、費用便益比、B/C が 2.5 となりました。

次に環境への配慮としまして、本工事にて発生する土砂は現場内流用を行います。全体の土砂収支では、約 70,000m³ ほど不足土が発生するため、他工事からの流用にて対応する計画としています。最後に対応方針としまして、事業効果は東九州自動車道と大分市内の各都心を結ぶ都市内連携軸。国道 10 号と大分市内の幹線道路を補完する東西連携道路。慢性的な交通渋滞の緩和などがあります。また、費用便益比が 2.5 であり、投資効果を十分に得ていることから、本事業については継続としたいと考えています。以上で庄の原佐野線の説明を終わります。

《議長》 ありがとうございます。それではご意見をお願いいたします。

《委員》 平成 26 年度に文化財の発掘を予定していますが、その調査がどのような内容かということ、それによって延びる可能性があるかどうかということをお尋ねしたい。この工事は平成 24 年度から始まって、順調に進んでいる感じですが、その前に大分インターから今の起点までの工事が先にあって、その続きと思います。全体的な見通しとして、どこまで終わったらこの工事がすべて完了という見通しなのか教えてください。

《都市計画課》 本事業は、現在供用している庄の原佐野線の終点側から国道 10 号を超え、その後、大分川を渡っていきますが、今回の事業の終点は、萩原鬼崎線、通称下郡バイパスまでの計画です。文化財調査は、平成 26 年度だけで行うのではなく、用地を取得した箇所から順次、発掘調査を開始しており、引き続き 24 年度に用地取得した箇所についても発掘調査を行っていきます。調査した結果、どのような埋蔵物が出るかにより事業が左右されますが、現段階での調査済み箇所では、まだ、そのようなものはないということです。

《委員》 全体の工事の見通しというか、どこまでが完了で、それがいつ頃かという予定が決まっていれば、それもお尋ねしたいのです。

《都市計画課》 椎迫入口交差点から、すでに供用している区間は 2.2 km あります。本事業区間の元町・下郡工区は、下郡中判田線より手前の通称下郡バイパスまでです。残りの約 800m 区間は、地域高規格道路の調査区間になっています。元町・下郡工区の本格的な工事を来年度から予定していますので、その見通しが立てば、残りの約 800m 区間について検討していく段階になるかと思えます。

《委員》 庄の原佐野線全体の計画を聞いていると思います。大分インターの方から来て、明野、またさらに宮河内の方まで続くと思うのですが、全体の予定をお尋ねしたい。それはわからないと言われればそうかもしれませんが、明野方面はいつも渋滞しているので、何とか整備して欲しいというのは、住んでいる人でなくても、かなりあると思います。

《都市計画課》 庄の原佐野線全体ですが、地域高規格道路の大分中央幹線道路として指定されているのが6kmです。元町・下郡区間の工事がある程度目途が立ったあとに下郡中判田線に向かう区間は、整備検討することとなりますので、それから先については、予定が立っていない状況です。

《委員》 大分市街地の交通網に関わるいろいろな整備を進めてもらっているので、バックグラウンドとして縦の線、横の線があって、今整備を進めていますという説明をお願いしたい。そうしないと、先ほどの渋滞が何メートル緩和しますという説明が、ぜんぜんつながってこない感じがします。全体像としての交通網において、こういう観点からこういう道路の整備が重要で、今ここを整備しているという説明していただきたいと思います。

《都市計画課》 大分市内の全体の計画については、来年度に大分都市圏のパーソントリップ調査を計画しています。それにより人の動きに着目しながら交通量なども調査します。それを見て、大分都市圏の都市交通の計画を策定する予定にしていますので、そういう面を含めて今後、検討していきたいと思っています。

《委員》 JRの高架化に伴い、大分駅の南側や北側、あるいはトキハ前の大通りを含めて、県や市からいろいろな交通網の提案がなされていますよね。やはり、そういうことと一つ一つが関わってきていると思うので、少し大きな視点と言うのか、これからを見通した視点、位置づけなりを提案してもらいたいと思います。

《都市計画課》 大分市内では、国道197号と国道10号、その北に大分大分港線という3本の軸が大分市内の横軸、東西の方向に走っていますが、どれも非常に交通量が多く、それを分散させる目的で庄の原佐野線が計画されています。大分川を渡河する橋は、北から弁天大橋、舞鶴橋、滝尾橋が庄の原佐野線より下流にあります。県としては50年ぶりに橋を架けることとなります。それにより交通が分散し、交通渋滞等も緩和されると考えています。

《議長》 それでは、お諮りをしたいと思います。事業者の方の対応方針案、継続が妥当であると認めることでよろしいでしょうか。

(一同異議なしの声)

《議長》 それでは、この事業については継続として答申します。この事業の最終年度は、平成28年度で変わっていませんよね。是非、これを厳守してください。延びる事業が多いと思いますので、よろしくお祈りします。